

農林水産省は8月、棚田地域振興法に基づく指定棚田地域として、石墨棚田（石墨町）を指定しました。県内の棚田の指定は初めて。薄根地域ふるさと創生推進協議会（山口耕会長）は、棚田と地域資源を生かした地域おこしに取り組んでいます。

県内初の振興法指定 石墨棚田



稲の切り口から生えてきた「ヒコバエ」と呼ばれる新芽

ホタルも乱舞
日本の原風景を残す仕組みとは

ISHIZUMI TANADA



棚田の発展 オナーに感謝

山口耕さん -石墨町-

放棄地だった棚田の整備を進めて5年。振興法指定はうれしいと同時に、ようやくスタートに立てたと身が引き締まる思いです。初めてオーナーを募った3年前は8組で、現在は26組と毎年協力者が増えて感謝です。棚田の良さを広く知ってもらえるよう、活動の継続や新たな取り組みに挑戦します。



薄根地域ふるさと創生推進協議会
公式YouTube



同会は毎年、県内外から棚田オーナーを募り、田植えや収穫といった稲作体験の場を提供するなど、地域外から棚田維持に向けた協力を得る仕組みを構築しています。

9月に行われた稲刈りでは、20家族計76人が参加。階段状に並ぶ田んぼに実った稲穂を刈って束ね、はさがけまでを体験しました。参加者は「稲刈りは初めて。昔の暮らしが想像できた」と、汗を流しました。昼食は地元産の新米と豚汁など楽しみました。

今春、棚田は同省の「つなぐ棚田遺産」にも認定。ツアーバスの集客も目指し、新たな田んぼの整備を始めました。ホタル鑑賞会やみそづくり体験も人気で、今冬にはイルミネーションのイベントを初めて開く予定です。



城下町づくりの基点となった天王石は、現在、テラス沼田前に置かれている



上位段丘面の末端にあたる道（鍛冶町）

沼田の歴史つくった
河岸段丘

河岸段丘は川が大地を削ることで、平坦な部分と傾斜が交互に現れる階段状の地形です。沼田の河岸段丘は、西は利根川、北は薄根川、南は片品川の侵食によって、約10万年前から形成されました。

RIVER TERRACE

真田信之が目指した
理想の城下町プランとは



歴史資料館専門委員
原澤直久さん -材木町-

河岸段丘を利用した城下町は全国的にめずらしく、信之の緻密な設計から実現できたといえるでしょう。複数の通りを同間隔で整備した寸法取りや、段丘面の末端などは現在も確認できます。信之の城下町プランに思いを巡らし散策すると楽しいですよ。



歴史資料館から
河岸段丘を学ぶ
YouTube



沼田城は河岸段丘を地の利として生かした城で、17世紀初頭に真田信之が沼田藩主となり、城下町の基盤づくりや整備を行いました。

沼田頭泰によって材木町・本町・鍛冶町の3町を割り立てられたことが町づくりの始まりで、信之は段丘面に城と城下町を築きました。3町の外周に寺院群を配置し、三光院から神明宮、町割りの中心と

なる天王石にかけて町をつくりました。城と城下町は平行四辺形で、上位段丘面の中に収まるように入念に設計され、今に生きていることが分かります。

大手門から坊新田町への道は、城と江戸を行き来する参勤交代路でした。台地の上は水に恵まれなかったため、隣接する各村より用水を引くことで町場が発展しました。